

# 再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーンの整備イメージ（部会案）

〈基本的な考え方〉

- ・両竹・浜野地区では、再生可能エネルギーを活かした新しい農業・新たな産業創出と、農業再生を通じた原風景回復による、双葉町の復興モデル構築に取り組めます。
- ・荒廃した農地の再生モデルとして、
  - ①再生可能エネルギー拠点としての活用
  - ②再生可能エネルギーを活かした、新しい産業創出
  - ③農地（水田）を活用した農業再生による原風景回復を推進します。

次世代園芸チャレンジ拠点（再生可能エネルギーを活かした産業創出）

- ・津波リスクの低い場所では、施設園芸（太陽光利用型植物工場等）や営農型太陽光発電など、新しい農業・新たな産業創出を目指します。
- ・水田再生活用拠点の取り組みと連携して、複合的な営農と働く場の創出を目指します。

- 【以下の施設の誘導・立地を検討】
- ①営農型太陽光発電施設（ソーラーシェアリング）
    - ・支柱を立て、農地の上部空間に太陽光発電設備等の発電設備を設置。営農と発電事業を両立。
  - ②花きを中心とした大規模施設園芸（太陽光利用型植物工場）
    - ・双葉町の気候特性と再生可能エネルギーを活かした、環境制御型の大規模施設園芸による花き栽培。
  - ③再生可能エネルギー（バイオマス）活用施設
    - ・主に地域や周辺で得られたバイオマス（木材、稲わら、資源作物等）を活用し、施設園芸等へ熱や電気を供給する施設を導入。
  - ④新たな一次産業の創出
    - ・養殖施設等、一次産業の可能性実証施設と加工作業用の関連施設を設置。
  - ⑤地域交流・農業体験学習施設（六次産業化関連施設）
    - ・地域交流や体験学習、農業機械の共同利用を兼ねた施設を立地。
    - ・来訪者向けの菓物野菜を中心とした小規模な人工光型植物工場を設置。
    - ・両竹・浜野地区の生産物を加工・販売。
    - ・復興に関する情報の発信。



再生可能エネルギー拠点（再生可能エネルギー拠点としての活用）

- ・耕地が未整備など、効率的な営農が将来にわたって困難な農地は、再生可能エネルギーによる拠点としての活用を目指します。（一部にメガソーラーを設置）
- ・施設の保守管理や草刈り等に係る就労の機会が生まれます。
- ・住宅地周辺は、花や樹木による修景など、住環境への配慮が望まれます。

◆大規模太陽光発電施設



水田再生活用拠点（農地（水田）を活かした農業再生）

- ・まとまりのある農地（水田）を活かし、農業再生による原風景回復を目指します。
- ・将来の食用米栽培再開に向けて、燃料用資源作物や飼料用米の作付けから始めることが考えられます。
- ・燃料用資源作物を栽培することで、農地を活用した再生可能エネルギー拠点となることも考えられます。

◆稲作（イメージ）

